

地域別勉強会助成制度実施報告

## ミニ小祝塾がスタート!

## ④ 関東ブロック編

## Report

## 研有会 (9月19日)

15名の参加を得て、『根こぶ病に代表される土壌病害虫対策を考える』を目的に和光市で開催。

見学した圃場は、客土(赤土)された畑とその同じ高さで元水田の土のままという部分がある畑。ここは隣接した水路があるので、過湿及び夏期の過乾燥の両極端の条件がある。現在根こぶ病が発生している畑の土を採取し分析測定。

この研修でポイントになったのは、根こぶ病対策という点だが、これにはまず生物性という面から考えて、根こぶ病に対する拮抗する菌をいかに増やすかがポイントになる。その上で、物理性の改善と土壌pHの改善という化学性というステップになるだろうが、出来れば同時進行が望ましいだろう。

故に、根の環境(根から分泌される有機酸やクエン酸及び根圏微生物の状態)を良好にするようカルシウム、マグネシウム+微量元素を配合したボカシ肥料や発酵肥料を使用するようにしたい。結局基本を見直すことになるだろう。また土壌分析を実施しそれに基づく施肥設計をすることが重要である。特に、有機質肥料(ボカシ肥料を含む)のみを施用すればよいという考えは、マグネシウムをはじめ微量元素欠乏が認められるので、注意すべきだろう。

カルシウムとマグネシウムは、窒素・リン・カリウムと同様に多量要素として再確認されるべき要素である。

今回の研修は、目からウロコが落ちる思いがした。今までボカシ肥料を投入し続けてきたのが、Drソイルという土壌分析器のおかげで、病気の原因や今までの栽培方法の盲点がはっきりした点が見逃せない。当研有会もこれを機に、土壌分析に基づいたより実際の施肥設計を心がけたものである。

(報告: 吉田武司さん)

有機栽培 あゆみの会  
(9月20、21日、27、28日)

## ●20日、21日 茨城県行方郡北浦町

午前9時、大葉生産者の吉田孝吉さん

農産部会の地域別勉強会助成制度を利用した勉強会の関東ブロック編です。単独でもぜひ開催したいという強い要望を受け、前後に集中して開催。埼玉、茨城、千葉の3団体のレポートを紹介します。

の圃場に集合。小祝さんとともに大葉の生育状況を確認しながら、作物の生理について話を聞き、バランスの取れた圃場の重要性を確認。特に大葉は葉をどんどん収穫していく作物で、土壌分析でも不足が見られた苦土(マグネシウム(Mg))を圃場からどんどん持ち出し続ける作物。また薬味として使われるようなだけイオウの成分も必要な作物ときき、今後の肥料設計に組み入れることを確認しました。

今回話にあがった、苦土やイオウは有機肥料栽培に不足しがちな肥料分、いくら堆肥をいっぱい入れても補えず逆にバランスを崩してしまう結果になるので注意が必要です。

圃場見学の後、座学をスタート。作物の生理について、土壌分析と施肥設計の重要性の話をメインに講演をしていただきました。後半は以前に分析した結果を見ながら施肥設計ソフトを使い、実際に施肥設計をして各肥料の特徴と成分の意味合いを説明してもらいました。

## ●27日 千葉県大栄町

堆肥場のエアレーション導入についての話を中心でした。

今回は、圃場視察の前に共同で使用している乾燥システムのある屋根付の堆肥場を見学、流れでホワイトボードを使っての青空講演会に。現状を見ながらエアレーション施設の有効性、かかる経費などわかりやすくお話をいただきました。

その後の圃場廻りでは生育中の作物を見ながら堆肥の熟度によって、野菜の初期成育に与える影響を説明いただきました。

座学では、作物の生理を中心に苦土の重要性など、各要素の働きの説明が。「しっかりバランスよく肥料が効くとこんなかんじ」という写真をプロジェクターに映し出されると、みんな目を食い入るように見ていました。

## ●28日 千葉県富里市

集合場所の隣が堆肥場だったので早速堆肥の話、屋根の意味、エアレーション導入の必要性を話していただき、その後圃場に移動、ちょうど雨天だったので葉

面の水はじきがよく見え、苦土欠の症状の確認が出来ました。

また、ごぼうの圃場では撒き直した圃場があり、その生育の違いから投入した肥料の肥効の説明を受け、なるほどと納得できました。

今回2週間4日にわたる講演で、優良堆肥、土壌分析、施肥設計の重要性を再確認、みんなが動き始め、早い人は早速土壌分析をもとに苦土の追肥をされる方がいて一時在庫不足になってしまったほどです。今後は自分たち自身で施肥設計が出来るようにがんばっていきたく思います。講師を務めてくださった小祝氏を始め、このような機会を作っていた皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

(報告: 丸山訓さん)

折本新鮮野菜出荷組合  
(9月26日)

参加者18名、折本公民館で勉強会が開かれました。

まず組合の堆肥舎で堆肥の現状を診断してもらいました。今作っている堆肥は樹木のチップと鶏ふんの混合です。資材は良いが水分不足と通気性を改善するようアドバイスをもらいました。次に加藤之弘氏の個人堆肥舎と温室のほうれん草を見て頂きました。これは塩類集積があるので堆肥散布の後、十分な灌水、2週間位おいては種するように指導されました。それから同氏の出荷直前の小松菜、ベカ菜の圃場を見学。色・生育状態は良好とのことでした。

3時頃より土作りの基礎的な講義。我々組合員の圃場は全体的に堆肥過多で加里過剰になっているとのこと。今後は個人個人が土壌分析をして、パソコンで施肥設計までできればと考えています。大変勉強になりました。組合員一同喜んでます。

(報告: 角田光夫さん)